

今年も涅槃托鉢到来。春もすぐそこ。鈴を鳴らし、読経しながら、弟子と共に一軒廻つての托鉢修行。あなた様も私共も共々に修行です。浄財のご喜捨があると、「財法二施 功德無量 檀波羅蜜 具足円満」と唱え、深々と問訊。この托鉢のチラシ、ご一読下さい。

今年の一月十四日より当山の本堂脇の鐘楼堂の曳き方工事が始まり、十八日午前中に旧道に近い境内の一角に無事に移設された。ジャッキアップして双盤石から柱をはずし、梵鐘をつるしたままで、屋根・四本柱ごとローラーが付いたレールで少しづつ移動する作業が、職人の手によって手際よくスムーズに行われた。昭和五十八年九月二十五日梵鐘制作者の香取正彦先生、住職の撞き初め以来、年中朝晩六時の撞鐘である。曳き方工事から基礎上部コンクリ工事完了の間は撞鐘せず、二月四日立春の昏鐘より、新たな場所で再び鐘の音が蘇り、十方に響き渡っています。

「声々響浄 常破速情 利人安国 廣林永榮」

(声々響き浄らかにして常に速情を破り 人を利し国を安んじ)

廣林永く栄えんことを)

不思議な縁でした。

どうせ梵鐘をお迎えするなら、「いい音色の梵鐘を作ってもらいたい」と、常々念じていました。その頃、

『禅の友』に梵鐘制作の第一人者で人間国宝の香取正彦先生の記事を見つけ、「この先生から作ってもらいたいなあ」と、思っていました。会議で胎内のホテルに宿泊した折、朝、見るともなく黒川村の広報誌を目にしたところ、近くの同じ曹洞宗のお寺で香取正彦先生制作の梵鐘をお迎えした記事を見てすぐに馳せ参じ、ご住職よりお話を聞き、梵鐘を撞か

せてもらいました。ちょうどご本山永平寺の承陽殿の鐘の音、声にそっくりでした。修行中の夏の暑い時期、夜坐中に聞こえてくる承陽殿の清らかな鐘の音声でした。その後、ご住職から先生にお話をしてもらい、梵鐘の鑄造を快諾いただきました。先生は九十に近いご高齢でありましたが、鑄造される前に久昌寺がどんな場所にあるのか、わざわざご来寺下さいました。町場のお寺の鐘の音は「カーン」という軽い高い音色、山場のお寺の鐘の音は「ゴーン」という重く低い音色にすることのこと。久昌寺の口径二尺五寸の梵鐘は「ゴーン」という重い響きの梵音、声(仏様のみ声)です。

先生は、「山門階段上がって向かって左側がよろしい」と言われましたが、雪のことも考慮し本堂脇に建設。今回、客殿・坐禅堂建設にあたり、やむを得ず移設することになった次第。鐘楼堂の新築、部分改築とも考えましたが、多くの方々の浄財で建立された尊い鐘楼堂ですので、今の建物をそっくり移設することとし、基礎のコンクリート以外はすべて移しました。それぞれの業者がそれぞれの技術を發揮し、見事に移設することができました。雪のなかったこともまた、不思議なことでした。

※三月十五日(日) 午前十一時より、ねはん会・お話・おとき どうぞおまいり下さい

涅槃の図 みな泣いていて あたたかし 「久昌寺坐禅会」毎週土曜日 夜六時半〜八時二十分 どなたでも

